

科学カフェご同好の皆様へ **ご協力お願い（文集へのご寄稿）**

科学カフェ京都 理事長 糸岡 晃

科学カフェ京都の例会にご参加下さり、ありがとうございます。本会の月例会は来年2018年4月に第150回を迎えることとなります。そこで例会150回記念誌を来年2月に刊行することにしました。この会の発足から現在に至る歴史を振り返り、ご参加くださる方々の思いや運営にあたる理事などスタッフたちの苦労や裏話のようなエピソードなどを記録にとどめ、それらを皆で共有できないかと考えました。そこで月例会にご参加くださる方々には是非この機会に記念誌文集へ一文を賜りたいと存じます。下記要領をご参考頂き、今月10月末日までに提出して下さいますよう、よろしくお願いいたします。

寄稿文作成要領

1. 長さ：A4サイズ用紙で1枚程度（原稿は返却しません。）
2. 内容：題目、氏名、本文、大まかな参加回数、できればご興味や自己紹介なども。
3. 提出期限：今月10月末日 提出は会場スタッフへ手渡しでも下記へ送るでも結構です
手書きの場合、〒606-0816 京都市左京区下鴨膳部町15 諏訪 浩 宛に郵送、
電子ファイルの場合、sekisen1997@gmail.com へ添付で送信 をお願いします。

(お書き頂く本文は、感想批評、印象に残ること、エピソード、ご意見要望、共感励まし、など何でも結構です。
よろしければ本会スタッフが書いた例文↓や過去の例会<http://cs-kyoto.net/> をご参考下さい。)

科学カフェ京都と私

諏訪 浩*

2012年に「京都の歴史災害」という共著本を出した。私は、「京都東山の土砂災害」という章を執筆した。それをお読みになった理学部の先輩から、「科学カフェ京都」という月例講演会にうってつけ。話してみたら、と勧められた。2014年4月に「京都東山の山津波」という題でお話しさせていただいた。それ以降、例会案内メールを頂戴することになった。講演時間が1時間半と長めであることに加え、それに続く質疑応答に1時間ほどという、ほかの講演会では例を見ないような贅沢。自然科学から社会科学、文化など多様な話しが用意されていて、どれも興味深い。聴衆を捉えて放さないような、話し上手な講師が少なくない。それで、時間が許すかぎり参加してきた。上述の質問時間、講演内容から逸れて持論を主張するような退屈な議論に出くわすこともある。しかし、本質を突く、あるいは異分野の目からの鋭い議論も少なくない。2017年7月例会で「自閉症を考える ― オープンシステムサイエンスからみた自閉症 ―」と題して講演なさった小西行郎の口から「凄い会ですね……、つぎつぎ質問が……」との言葉がこぼれ出た。講演のあとの質問時間、本質を突く質問がつぎつぎ。それにお答えになり、議論を楽しんでおられた小西氏の口からついこぼれ落ちた言葉であった。これはありがたいこと、とうれしくなった。この会の存在意義を示すように感じる。このような瞬間、時間をこれからも共に出来ることを期待し、科学カフェ京都の活況を願ってやまない。……（つづく）

* 2014年からほぼ毎回参加。感想の一端は上述の通り。プロフィール：2010年に大学を定年退職。専門は地球物理学・陸水物理学・山地災害論など。